

大学コンソーシアム京都
他大学科目受講制度
「単位互換」

京都の大学すべてが
きみのキャンパス



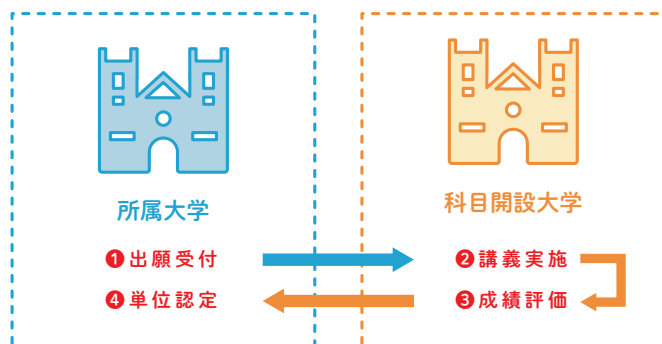
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

「単位互換」って??

「単位互換制度」で他大学の科目が受講できます

単位互換制度について

世界遺産を舞台にしたPBLなど、多様な科目を受講できます。



単位互換制度とは、単位互換包括協定に加盟している大学・短期大学（以下、大学）に所属する学生が、他の加盟大学が開講する科目を履修でき、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都の単位互換制度には、京都地域を中心に約45の大学・短期大学が加盟しています。加盟大学・短期大学からは、講義形式の科目、実習やPBL^(※)を取り入れた科目、また、学生の幅広い関心や興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学など、多種多様な学問分野にわたる科目が提供されています。

年間で履修できる科目数や取得できる単位数は、各自の所属する大学学部によって取扱いが異なりますので、事前に所属大学で確認してください。

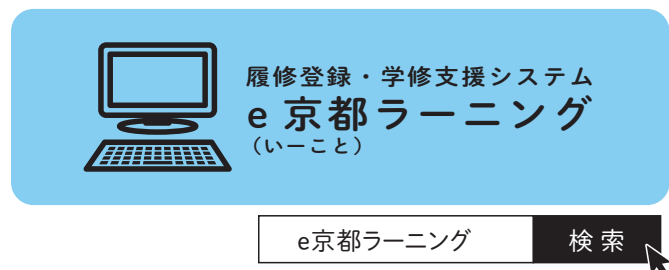
なお、受講料は無料ですが、受講科目によっては、所定の実習費や材料費等が必要となる場合があります。

※PBL（Project Based Learning）とは、課題発見・解決型の能動的学習のことです。

単位互換科目のシラバスと出願

1. 単位互換科目のシラバスについて

単位互換科目のシラバスは、単位互換の専用システム「e京都（いーこと）ラーニング」から確認できます。テーマ、授業形式、開講曜日・講時、開講大学などから検索ができます。



2. 出願について

(1) 出願期間について

単位互換科目は、前期は3月下旬から4月上旬に、後期は9月上旬から中旬にかけて出願期間を設けております。後期出願を実施しない大学もあります。なお、出願期間は所属大学によって異なりますので、必ず所属大学に確認してください。

(2) 出願方法について

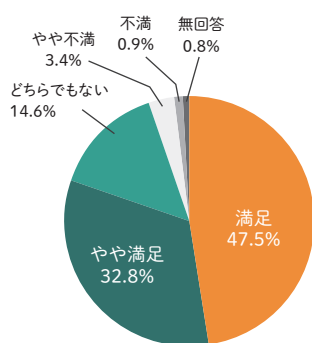
単位互換科目への出願は、e京都ラーニングシステムから行います。

（※立命館大学、龍谷大学、早稲田大学の学生は除く）

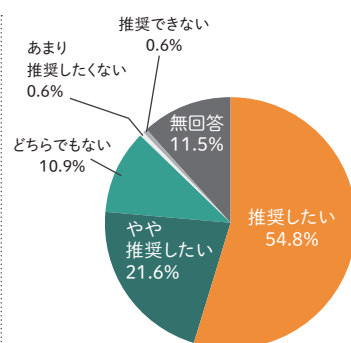
詳細な手順は、出願手続のページをご覧ください。

※立命館大学、龍谷大学、早稲田大学の学生は、各大学のシステムより出願を行います。詳細な手続については、所属大学に確認してください。

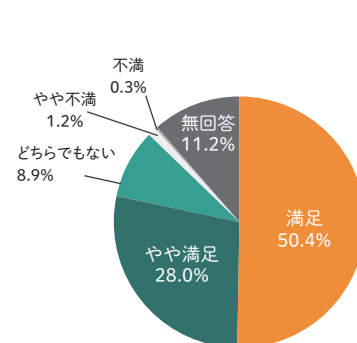
単位互換科目受講者アンケート(2017)



【授業の内容について】



【知人や友人への参加の推奨】



【全体の満足度】

■単位互換制度参加大学一覧(2019年度)

国立大学▶ 京都大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学

公立大学▶ 京都市立芸術大学、京都府立大学、京都府立医科大学、福知山公立大学

私立大学▶ 池坊短期大学、大谷大学、大谷大学短期大学部、京都華頂大学、華頂短期大学、京都外国語大学、京都外国語短期大学、京都経済短期大学、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都産業大学、京都女子大学、京都精華大学、京都西山短期大学、京都先端科学大学^{*}、京都造形芸術大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、京都美術工芸大学、京都文教大学、京都文教短期大学、京都薬科大学、嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学、種智院大学、成安造形大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、佛教大学、平安女学院大学、平安女学院大学短期大学部、明治国際医療大学、立命館大学、龍谷大学、龍谷大学短期大学部、大阪医科大学、早稲田大学

※2019年4月より京都学園大学から校名がかわります。

単位互換科目のテーマ分類について

単位互換科目は、大きく下記A～Iの9つのテーマに分類されており、興味のあるテーマから科目を探すことができます。

なお、科目内容によっては1つのテーマだけで表現できない横断的な内容のものが多数ありますので、必ず各科目のシラバスを参照の上、科目を選択してください。

	A 京(みやこ)を学ぶ 京の歴史、伝統文化、産業、地域、観光など京都を多様な角度から学ぶ科目群
	B 歴史を学ぶ 日本史、世界史、考古学、地史学、民俗学、郷土史、古文書など歴史観を養う科目群
	C 文化・芸術を学ぶ 文学、古典、音楽、美術、デザイン、絵画、工芸、芸能など文化・芸術に親しむ科目群
	D ことば・言語を学ぶ 語学、言語学、外国語、表現、演劇、コミュニケーション法など表現力や語学力を身に付ける科目群
	E 教育・人生観を学ぶ 心理、教育、宗教学、哲学、倫理、思想など人の生き方、育て方を考える科目群
	F 生活・健康・スポーツを学ぶ 暮らし、福祉、看護、健康、スポーツ、生命医学などライフスタイルに関わる知識を得る科目群
	G 自然・環境を学ぶ 環境学、地理学、農学、天文学、物理学、生物学、生態学など自然界に触れる科目群
	H 現代社会を学ぶ 法学、経済学、経営学、政治学、社会学、科学技術、情報学など多角な観点から現代社会を観察する科目群
	I 国際関係を学ぶ 法、政治、教育、福祉、比較文化、海外セミナーなどを通じて世界情勢を知り、グローバルな視点を養う科目群

単位互換科目について

単位互換科目には2つの開講形態があります。

プラザ科目

キャンパスプラザ京都で開講される科目です。単位互換のために開設された科目が多く、各大学の特徴のある科目が開講されます。

オンキャンパス科目

科目開設大学のキャンパスで開講される科目です。他の大学のキャンパスで学ぶことができます。

特色ある科目

プラザ推奨科目

「プラザ推奨科目」とは、プラザ科目のうち、大学コンソーシアム京都が特に特色があると認定した科目で、学生に受講を推奨している科目です。複数の教員や実務者等のゲスト講師によるチェーンレクチャーやリレー講義を実施する科目、また、フィールドワークや PBL、実習などを取り入れた学生が主体的・能動的に学ぶ演習系の科目が開講されます。各大学が自信を持って提供している非常に興味深い科目ばかりです。単位互換で新しい学びを体験したい方は、ぜひとも受講してください。

京都世界遺産PBL科目

プラザ推奨科目のうち、京都の世界遺産をフィールドに PBL を展開する科目が「京都世界遺産 PBL 科目」です。本科目は、各大学と「明日の京都文化遺産プラットフォーム」、「大学コンソーシアム京都」が協力して運営しております。授業では、主にグループでの学習を通じて、世界遺産やその周辺地域が抱える課題を自らで発見し、解決案を提案します。他大学の学生と協力しながら、世界遺産の関係者との対話を通じて課題解決に取り組むという、コンソーシアムの単位互換ならではの科目です。他大学の学生と協働したい方、京都や文化遺産に興味のある方は、ぜひとも受講してください。

受講生インタビュー

どんな授業があるの？受講生の声



科目名 ▶ 京都の文化・歴史・観光
—京都検定への誘い—

開設大学 ▶ 京都産業大学

テーマ ▶ 京都(みやこ)を学ぶ 

牧 竜太

立命館大学 法学部 法学科 3年



京都検定 3 級合格を目標に、この授業を選択しました。授業は公式テキストに沿って進みますが、過去問題の解説だけでなく、京都にまつわるさまざまな知識を得ることができるので、歴史や京都が好きな人にとっては大変有意義な授業です。また他大学の学生と一緒に受講することで学習意欲も刺激され、合格へのモチベーションも上がります。京都の大学に通う学生にとっては京都について深く知る良い機会となるので、ぜひ受講してみてください。



科目名 ▶ やさしい看護学:成人期における健康障害とその予防法

開設大学 ▶ 京都府立医科大学

テーマ ▶ 生活・健康・スポーツを学ぶ 

上白土 景子

京都女子大学 現代社会学部 現代社会学科 2年



先輩からの薦めでこの講義を知り興味を持ちました。成人期における健康障害の特徴と予防法について学べる授業で、講師が実際に看護師だった経験に基づいたアドバイスなども聞くことができます。病気の原因や予防法を知ること、自分や身の回りの人が病気になった際の行動が以前よりも具体的に想像できるようになりました。ヘッドトリートメントなどの演習もあり、学生たちの意見を取り入れながら授業が進むので、文系、理系に関わらず楽しく受講できると思います。

※ 掲載科目は2018年度の開設科目です

※ 受講生の所属・学年は2018年度時点のものです。



醍醐寺 と 京都橘大学

世界遺産醍醐寺
プロジェクト活動をパブリック化する試み

世界遺産が学びのフィールド
京都世界遺産
PBL科目

醍醐寺の素晴らしさをもっと広めたい！ 個性を活かして取り組む “魅力発信プロジェクト”

千年以上に渡り、人々の祈りの中で歴史を育んできた醍醐寺。15 万点もの寺宝を有するこの大寺院で「世界遺産醍醐寺プロジェクト活動をパブリック化する試み」をテーマとする PBL 科目が行われました。貴重な文化財に触れることで、学生たちは何を学び、どう感じたのか。受講中の学生と担当教員、そして醍醐寺の仲田さんにお話を伺いました。



Interview



総本山 醍醐寺
執行・総務部長
仲田 順英さん

京都橘大学
文学部
歴史遺産学科 准教授
小林 裕子先生



京都橘大学
文学部
歴史遺産学科 2 年
伊藤 潤さん



京都橘大学
文学部
歴史遺産学科 4 年
佐藤 優さん

課題もゴールも自分たちで決める

小林先生：PBL は課題発見・解決型学習なので、この授業でもゴールは学生たちが自分で見つけることになります。醍醐寺には数多くの国宝や重要文化財があるので、彼らが実物を目の当たりにして歴史遺産について考え、学ぶには最適な場所です。またお寺にお邪魔するという点で、服装や礼儀作法などについても学んでほしいと思っています。

仲田さん：学生さんの受け入れを始めて 4 年になりますが、常に同じ気持ちで受け入れ、同じように接することを心掛けています。本来お寺や神社というのは多くの人と触れ合い、お話をしながら共に学ぶ場所だと思っています。それが長い歴史においても神社仏閣の役割だったのですが、今はなかなか訪れた方とゆっくり言葉を交わすのが難しい。そういう意味では、学生さんを受け入れることで僧侶たちにも学びがありますし、学生さんにも色々なことが伝わるのではないかと考えています。

伊藤さん：私は授業を受ける前は、お寺に少し敷居の高いイメージがありました。しかし醍醐寺の方々は大学で教わらないようなことも丁寧に教えてくださり、大変有意義な時間を過ごすことができました。実際、授業を受けて仏像の配置や建造物の構造など、これまでとは異なる視点でお寺を見ることができるようになりました。



佐藤さん：普段の座学の授業がインプット型としたら PBL は正反対のアウトプット型です。学生主体で動くので、テーマをどうするのか、何を作るべきか、作業はどのように進めていくのかなど、自分たちで決めなければならないことも多く、その点は苦労しました。また私は大勢の人と接するのが得意ではないのですが、チーム内でリーダーを担当したことで以前よりも積極的になれた気がします。苦手意識を捨て、メンバー全員とコミュニケーションを取るよう心掛けました。

仲田さん：私たちは学生さんが自分で課題を見つけ、それを解決していく姿勢を尊重します。だからこちらから課題を提示することはありませんが、お寺で授業をする意味や、多くの人の心遣いがそこにある、ということを感じてもらえれば幸いです。お寺としても学生さんたちの成果物の批判はせず、それをどのように活かせるのかを考えていく。いい物があれば取り入れて残していくことが、学生さんにとっても実績になると考えています。

小林先生：過去の受講生たちを見ていると、彼らがお寺で学んで戻ってくると表情が違いました。普段は入れないところを見学させてもらったとか、貴重な仏像を拝ませてもらったとか。そこにはやはりお寺の皆様のお心遣いがあったのだと思います。

学びは一生、 PBL は自由な学びに触れる第一歩

佐藤さん：この授業では、座学では学べない生きた知識を学ぶことができます。醍醐寺にはさまざまな文化財があり、それらは人々の“祈り”のもと、今に伝えられてきたのだと教わりました。机上で学ぶのではなく、実際に現地に足を運び、自分の目で見ること、人々の思いを肌で感じ取ることができました。



伊藤さん：僕は薬師如来が好きなのですが、資料集ではわからなかった部分も実際に確かめることができました。境内の雰囲気や文化財の迫力など、フィールドワークだからこそ味わえる臨場感を感じられたことがうれしかったです。

仲田さん：学生さんには、学ぶ意欲を色々な分野に対して持ってほしいですね。学びを止めると人生はまったく面白くなくなります。小中高校はマニュアル通りにやらないといけな授業が多いですが、大学はこの PBL をはじめ、型通りではない学びに触れられる場所です。学びの楽しさを感じながら、それぞれの個性を伸ばしていただきたいと思います。

－受講生からのメッセージ－

通常の授業で歴史を学ぶより、実際に現地に赴きたい、観光ではなくもっと入り込んだ立場で京都の世界遺産に触れたいという方に受講をおすすめします。学生同士でのものづくりの経験も、さまざまな面で役に立つと思います。

担当教員からの一言

【科目名】遺産情報演習Ⅰ(b)～世界遺産醍醐寺プロジェクト活動をパブリック化する試み～／【担当】小林 裕子 准教授

本学のほど近くに位置する理源大師聖宝が開いた醍醐寺は、貴重な文化遺産を多数伝えてきた京都屈指の古刹です。本演習ではまず、歴史遺産学科の特性を生かして醍醐寺が伝える寺宝を観察、把握、理解します。そのうえで「写仏」をするための冊子を作成し、完成した冊子＝ツールを利用して「寺院と人々」との関係性において新たな提案を行う能力を身につけることを目的とします。本来であれば課題発見をプロジェクトの初期段階でおこないますが、本学のプログラムでは「写仏」というツール作成にあたり、今、この瞬間にいかにかご寺宝にスポットを当てるべきかという部分に注力します。すなわち、多くの方々に今、醍醐寺の何をどのように知っていただくことが必要なのか、求められているのか、この課題について自身の持てる力を総動員して解決していく、これが本 PBL 科目での学びです。

学生だからこそ気付く“防災”がある。 多角的な視点で考える清水寺の災害対策

年間 400 万人の参拝者が訪れる清水寺。この日本を代表する寺院は誰が、どのようにして守っているのか。授業では「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」と題し、防災の視点から貴重な世界文化遺産を見つめていく。受講中の学生と担当教員、そして清水寺の森さんにお話を伺いました。

Interview



清水寺
執事補
森 清顕さん



立命館大学
理工学部
都市システム工学科 教授
大窪 健之先生



立命館大学
理工学部
環境都市工学科 1 年
坂東 美佳さん



立命館大学
法学部 法学科 1 年
高橋 信晴さん

お寺で受ける授業の感動が 実践につながる

大窪先生：元々清水寺には災害から文化財をどう守っていくのか、という私の研究テーマに対してご理解とご協力をいただき、かなり踏み込んだ調査をさせてもらっていました。その成果をもっと若い世代の人たちに知ってもらい、継続的な取り組みにしていかなければならない。そんな思いでこの授業を実施しています。

森さん：学生さんには防災という切り口で学んでいただくことで、お寺を守る上での現実を知っていただきたいと思っています。ただ守るのではなく、なぜ守らなければならないのか、というところまで考えてもらいたい。ひいては自分の身を守る糧にさせていただき、いざという時に役立ててもらえればありがたいです。



高橋さん：私は京都の人間ではないので、せっかく 4 年間京都に在るなら、ここでしか学べない知識を得たいと思い、この授業を選択しました。はじめは単純に清水寺で授業が受けられる環境に感動していたのですが、直前に台風 21 号が通過したこともあり、真剣に生き残る術について考える貴重な機会となっています。境内見学の際にも、観光客

として訪れていた時には気が付かなかった防災対策を目の当たりにして驚きました。

森さん：今回皆さんが授業で見たり経験していることは、普段のお寺参りの視点とはまったく違いますからね。

坂東さん：私も授業を通して清水寺の見方が大きく変わりました。災害の歴史や先人の知恵、そして最新の技術を取り入れながら景観と安全性の両方を維持している清水寺は、まさに日本全体にとっての防災モデルだと思います。

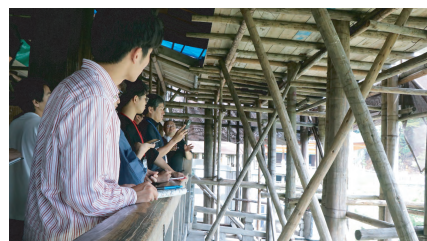
学生ならではの視点で 防災を考える

森さん：清水寺には門前があり、お土産屋さんのほとんどがそこで暮らしている地元の方です。何かあったらまずは寺に駆け付けるとするのが門前の皆さんの行動基準なので、有志の方で構成されている警備団の意識も非常に高く、ほかの地域からも評価をいただいています。

坂東さん：この地域の方々は、いざという時に備えて普段から市民用消火栓を使う訓練をしているそうです。そのお話を聞いた時、私の地元はまだ防災に対する意識が低いと感じました。そういった素晴らしい点を学ばせていただきながら、授業の発表ではよりスムーズに外国人観光客の避難誘導ができるような対策を提案できればと考えています。

大窪先生：やはり学生たちの着眼点というのは、普段私が調査で見ている視点とは違うんですね。彼ら若い世代の意見を地域の防災対策に生かしていくことこそ、この授業の意義だと思っています。

坂東さん：将来、地元に戻って防災関係の仕事に就きたいと考えているので、今回授業で学んだことを地域の防災にも取り入れていきたいと考えています。森さんのお話の中で「誤作動を起こすのは機械ではなく人間である」という言葉があり、非常に印象的でした。大切なのは設備ではなく、



その土地に暮らす人々の意識なのだと実感しています。

森さん：どれだけいい設備があっても結局最後は人間なんですよ。お寺と門前も共存共栄、互いに手を取り合い、助け合うことが大切です。皆さんにも地域連携の重要性や災害時の柔軟な発想力など、ここ清水寺をひとつの経験の場として学んでいただき、今後の活動に役立ててもらえれば幸いです。

ー受講生からのメッセージー

京都世界遺産 PBL 科目は、京都の大学に通っていないければ受講できない授業です。県外の学生にとっては京都がより身近に感じられる貴重な経験ですし、地元出身の学生であっても必ず新しい発見があると思います。また、他大学の学生とグループワークを通じて交流できるのも新鮮です。

過去のインタビュー記事はWebサイトに公開中
http://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/interview/

担当教員からの一言

【科目名】特殊講義(教養E)「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」／【担当】 大窪 健之 教授

世界文化遺産である清水寺は、年間 500 万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院です。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備について、座学とフィールドワークで学びます。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行います。また、門前町の清水寺警備団の方などから活動内容や成功の秘訣、現在の課題について学びます。京都市により実現された「文化財と地域を守る防災水利整備事業」については、現場での視察を通してその整備の効果やメリットを学ぶとともに、整備に至った「地域ぐるみ」の取組みの経緯についても学びます。これらの学習成果を踏まえて、チームに分かれて境内と周辺地域の災害リスクを現地調査し、DIG(災害図上訓練)ワークショップ演習を通して課題抽出と改善提案のアイデアを練り、最終発表会で成果を清水寺と地域に還元します。皆さんの積極的な受講をお待ちしています。

大学コンソーシアム京都のこんな活動もおススメ

京都学生祭典 京都国際学生映画祭 実行委員募集中!

京都からの情報発信と京都地域における大学間、学生間の交流を目的に開催している「京都学生祭典」「京都国際学生映画祭」では、その企画・運営を担う学生スタッフを募集しています。京都で、しかも大学生でしか体験できないこの機会に、積極的なご参加をお待ちしています。詳しくは、京都学生祭典、京都国際学生映画祭のホームページをご覧ください。

京都学生祭典

Twitter @KIF_saiten

京都学生祭典は、学生の力で京都を盛り上げようと 2003 年から毎年 10 月、平安神宮前・岡崎公園一帯（京都市左京区）をステージに繰り広げられる一大イベントで、第 17 回を迎えます。京都府や京都市、経済団体、大学が「オール京都」体制でバックアップしているため、大学の枠を越えた学生同士の交流を深められるだけでなく、企業や行政の方をはじめとする社会人との接点も豊富で様々な経験ができます。



京都学生祭典実行委員会（平安神宮前で）

京都国際学生映画祭

Twitter @kisfvf

京都国際学生映画祭は、学生の実行委員会が運営する日本最大規模の国際学生映画祭で、第 22 回を迎えます。国内外を問わず、広く学生監督の映画・映像作品をコンペ形式で募集し、選考した作品を上映する京都国際学生映画祭の企画や運営を担います。学生監督だけでなく、映画関係者や海外からの招待者とも交流を図ることができます。



京都国際学生映画祭実行委員会（京都文化博物館で）

インターンシップ に参加しよう!

大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムとして、全国に先駆けて 1998 年度に開始しました。単なる職業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い評価を得ています。

インターンシップ・プログラム コース紹介

▶長期プロジェクトコース（プログレスコース）

約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織（NPO・NGO 等）が提示したテーマを実現するプロジェクト型のコースです。プロジェクトを通して、さまざまな角度から実社会を見つめ、現状を把握し、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることを目指しています。長期インターンシップならではの達成感を感じてください。



▶ビジネス・パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織（NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う短期実践型のコースです。事前学習、実習、事後学習という体系化された学習プログラムを通じて、実社会への理解を深め、社会性を身につけるとともに、実習後の学生生活における課題の整理と目標を明らかにすることを目指しています。



京都から発信する政策研究交流大会

大会の企画、運営、広報を行う学生実行委員を募集しています!

京都から発信する政策研究交流大会は、京都の大学生が都市にかかわる政策研究や学修成果の発表を行う大会です。

学生実行委員は、政策系学部の教員を中心に構成する都市政策研究推進委員会の助言をいただきながら、発表者の募集から大会当日まで、参加者がスムーズに発表できるよう活動を支援しています。発表する学生の分科会運営に加え、学生実行委員会の企画による講演・ワークショップなどの「学生企画」も開催しています。インカレの活動として他大学の学生と交流するきっかけとなります。



ぜひ一緒に活動して大会を盛り上げましょう!

京都学生広報部 ～リアルな京都の魅力を発信中～

学生広報部員、募集中です!



京都学生広報部は、大学生の視点で、「大学のまち・学生のまち京都」の魅力を、全国の中高生に発信することを目的に活動する学生団体です。学生生活を送る中で実感するリアルな京都の魅力や大学生活など京都で学ぶ大学生が記者となり、企画・取材・記事作成をしています。また、企業や中高生とのコラボイベントや広告業界で活躍するプロによる研修会も行っています。興味のある方は、WEB サイト「コトカレ」をご覧ください、ぜひ一緒に活動しましょう!

WEBサイトはこちら ▶ 「コトカレ」 <https://kotocollege.jp/>